



★SCHOOL NOW!★

学校だより

令和3年6月1日発行 第3号 校長 大野 友己

守口市立庭窪中学校

〒570-0002 大阪府守口市佐太中町 4-1-7

電話：06(6902)6951 / Fax：06(6907)2667

Eメール：niwakubo_j.h.s@moriguchi-osk.ed.jp

1学期もあと35日!自分を見つめて!



大阪府下の新型コロナウイルス感染状況は減少傾向となっておりますが、さらなる感染予防を継続するため、5月31日までの緊急事態宣言が6月20日まで再延長されることになりました。学校教育活動は現状のまま継続して行うことができますが、6月に予定していた修学旅行や2年の宿泊学習、公開授業などの学校行事は延期または中止することになりました。引き続き、皆さんには起床時間や睡眠時間の確保など基本的な生活リズムを整え、健康管理に心がけることも忘れず、毎朝の検温や健康観察カードの記入

- ・自分の体をリスクから守ることをお願いします。

また中間テストが終わり、1学期もあと35日を残すのみとなりました。制限のかかる日々が続きますがこんな時こそ、自分自身を見つめ直し、家族のことや学校生活での学習や仲間とのことを振り返り、前向きに過ごしてほしいと思います。心温まる新聞の投稿を見つけたので紹介します。

『毎日新聞より 5.26』

続けたいさりげない親切

会社員 市村 元31 (神奈川県藤沢市)

高校生の時、週末に通っていた塾がお昼休みになると、よくお弁当と飲み物を近くのスーパーまで買いに行った。お弁当と飲み物を手に持ってレジに並んでいると、前にいるおばあさんが「私、こんなに買い物があから、よかったです、先んいいわよ」と声をかけてくれたことがあった。また、ある時は塾があってせきが止まらないためドラッグストアに行った。風邪薬とペットボトルの水を手に入れたら、先にレジに並んでいるおばあさんが「お先にどうぞ、お大事に」と譲ってくれたこともあった。私はその度に、さりげない人の優しさ感謝した。先日、ドラッグストアで買い物をしてレジに並んでいると、マスク1箱を持っている男性が私の後ろに並んだ。私の商品カゴはいっぱいだった。前を譲ってあげた。すると、喜んでお礼を言われ、お会計が済んだあとこちらに何度も会釈された。なんてことない。私も以前受けてきたことだ。こんなささいな親切で喜ばれるなら今後も続けていきたい。

緊急事態宣言延長【6月20日】の部活動にかかる市教育委員会の方針

部活動は原則休止とする。ただし、公式大会（今後、概ね6週間以内にある北河内規模の大会もしくは、それにつながる大会等）への出場等、学校が必要であると判断する場合は、感染予防策を徹底した上で、活動時間を平日及び学校休業日ともに1時間程度とし、指導者立会のもと行う。また、公式大会等がなく、4月15日以降活動ができていない文化部は、平日に限り1時間程度の活動を指導者立会のもと行うことを可とする。

部活動についてはこの方針をふまえ活動していきます

6月

主な行事予定

- 2日(水) 一斉退庁日
- 4日(金) 3年実力テスト
- 7日(月) 諸会費振替日
- 8日(火) 1年教育相談 心臓検診2次
PTA 実行委員会
- 9日(水) 1年教育相談 1年眼科検診
一斉退庁日



- 11日(金) 3年進路説明会◎
- 14日(月) 1年教育相談～15日(火)
- 16日(水) テスト1週間前 一斉退庁日
- 23日(水) 期末テスト(～25日) 一斉退庁日
- 30日(水) 1・3年耳鼻科検診 3年眼科検診
一斉退庁日



※10日(木)11日(金)の公開授業は緊急事態宣言延長により中止とさせていただきます。

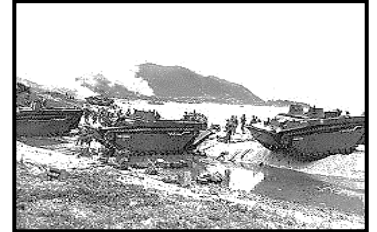
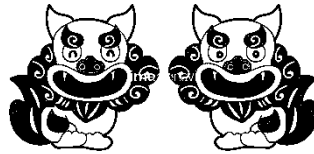
◆ 6月23日は『沖縄慰霊の日』 ◆



一般住民を巻き込み、20万あまりの尊い命と財産や、沖縄の文化財、自然がごとごとく奪われた沖縄戦は、太平洋戦争で、唯一、日本国内の一般住民が地上戦を体験したという、まさに地獄そのものでした。沖縄戦における20万人を越す戦死者のうち、約半数に近い、実に9万4000人余りの戦死者が、兵隊以外の一般県民や子供です。

そしてこの日を、日本軍の組織的戦闘が終結した節目としてとらえ、沖縄慰霊の日が制定されました。この6月23日の『慰霊の日』沖縄戦の戦没者の霊を慰めて平和を祈る日として、本土復帰前は「休日」と定め、各行政機関や学校、企業に定着していましたが、1972年の本土復帰後は、当然日本の法律が適用となって「慰霊の日」は「休日」としての法的根拠がなくなってしまったのです。（※沖縄県では条例で休日 1991年より休日となっています。）

毎年この日は、糸満市摩文仁の平和記念公園において午前11時50分から沖縄県、沖縄県議会主催の「沖縄全戦没者追悼式」が行われ、正午の黙祷などにより戦没者の御霊を慰めるとともに世界の恒久平和を願う沖縄県民の思いを世界に発信しています。



★守口市には『夜間学級』があります。戦争や貧困など様々な理由で義務教育を修了できなかった 16歳 から 86歳 まで、13か国 の方々が学んでいます。その生徒さんの書かれた作文の一部を紹介します。



『ランドセルの味』 さつき学園（旧第三中学校）夜間学級 北野 幸子

昭和十九年秋頃、大阪市から八尾の親戚を頼り疎開することになりました。両親と姉、兄、私、二人の弟、家族七人でした。ますます戦争が激しくなり、通学途中に、空襲警報のサイレンが鳴るようになりました。学校に行くことも、家に帰ることもできず、とにかく隠れました。アメリカ軍の飛行機が、飛行士の顔が見えるほどの低いところで飛びます。大きな爆音にびっくりして、近くの牛小屋に飛び込んだこともあり。そんな毎日で、勉強なんてしていたのか思い出せません。大阪市内から被災者が数珠つなぎになって学校にやってくることもあり。背中の防空ズキンも焦げ、頭から血が流れている人がたくさんいました。中でも、忘れられない光景があります。お母さんが、赤ちゃんを背中におんぶしているのですが、お母さんも赤ちゃんも焦げて、真っ黒でした。私たちの目には、赤ちゃんがもう死んでいるのがわかりました。それでも、お母さんは赤ちゃんをおんぶしていました。そのお母さんが本当に可愛そうやなあと思いました。

ある夜、遠くの方で焼夷弾という爆弾がたくさん落とされました。「きれいやなあ」と言ったら、「何言うてんねん」と父が私の頭を抑えつけました。私は、あまりにも父がこわいので、床下の防空壕に逃げました。子どもだった私には焼夷弾が花火のように見えました。でも、その爆弾の下には、家を焼かれたり、死んでしまった人がたくさんいることを父は言いたかったのだと思います。

昭和二十年八月十五日正午。大勢の人々がラジオのあるお店の前に集まりました。みんな膝まづき、天皇陛下の言葉を聞きました。中国で戦争体験した父は、日本が負けるはずないと叫んでいました。大人たちも、みんな泣いていました。私は、もう戦争が終わったのだから、普通の生活ができる。学校で勉強ができると思い、嬉しくてはしゃぎまわっていると、父がすごく怒りました。ところが、戦争後待っていたのは、食べるものもない貧しい生活でした。おまけに、ある日突然父がいなくなったのです。私たちはどうしていいかわかりませんでした。私は、とにかく勉強がしたくて、弟を連れて学校へ行きました。でもお腹が空き、勉強など頭に入りませんでした。何か口に入れたくて、姉のお下がりの牛革のランドセルのベルトを噛みました。毎日、毎日、ベルトがポロポロになるほど噛みました。塩辛い味がして、本当にオイシかったです。そのうちに、私が働かなくては食べていけなくなりました。十二歳から、大きなお屋敷に住み込み、子守りの仕事をしました。ある日、魚屋さんで料理してもらった魚を取りに行くよう奥さんに言われました。見た事もないような立派な魚でした。持って帰ると、奥さんは料理した魚の頭と骨を犬にやりました。私は、奥さんがいなくなると思わずその魚を犬からとって食べました。こんな不公平なことはないと思いました。今の若い人々には、私のような思いを絶対にさせたくない。戦争は絶対だめだと強く思っています。今、私は夜間中学で勉強しています。四年前の九月五日、家のポストに入っていた

生徒募集ピラを見て入学を決めました。今、子どもの時に勉強できなかった悔しさを取り戻すために頑張っています。

